

ART × 科学 対話



展覧会「人と科学と現代アート」

ステレオタイプを超えてゆけ -Go Beyond Stereotypes-

会場

東京工業大学博物館

Geek Love Project Vol. 1

2019.06.15 土

11:00-21:00

2019.06.16 日

10:00-18:00

※公開トーク・パフォーマンスイベント有り
詳細は、裏面・Web・SNSへ



建築家 篠原一男(意匠設計/百年記念館)の非公開資料(スケッチ)を期間限定で特別公開いたします。(博物館内特別展示)
協力:東京工業大学博物館百年記念館

百年記念館 1階 T-POT

SHOW W

【SOFT ROBOTICS】

東京工業大学 工学院・機械系 鈴森・遠藤研究室
 教授 鈴森 康一 KOICHI SUZUMORI
 准教授 遠藤 玄 GEN ENDO
 東京工業大学 情報理工学院・情報工学系 小池英樹研究室
 特別研究生 高橋 宣裕 NOBUHIRO TAKAHASHI

【ARTISTS-Works】

尾角 典子 NORIKO OKAKU-映像・アニメーション他
 小林 勇輝 YUKI KOBAYASHI-パフォーマンス (詳細 右記参照)
 坂井 存 ZON SAKAI-パフォーマンス (フレキシブルに実施)
 佐藤 雅春 MASAHARU SATO-映像・アニメーション
 中嶋 興 KO NAKAJIMA-映像・アニメーション
 フォトグラファー・ハル PHOTOGRAPHER HAAL-写真
 藤本ナオ子 naok fujimoto-インスタレーション他

【ARCHITECTURE-百年記念館】 非公開資料(博物館内特別展示)を限定公開いたします。

東京工業大学 名誉教授 建築家 篠原一男 KAZUO SHINOHARA (1925-2006)
 東京工業大学 環境・社会理工学院 建築学系 教授 奥山 信一 SHIN-ICHI OKUYAMA
 東京工業大学 環境・社会理工学院 建築学系 准教授 塩崎 太伸 TAISHIN SHIOZAKI

- ・公開トークイベント (予約不要) ※詳細は Web, SNSへ→
 6月15日(土) 15:00- 鈴森 康一教授、研究者、作家等
 6月16日(日) 14:00- 塩崎 太伸准教授、研究者、作家等
- ・パフォーマンス (予約不要) ※詳細はWeb・SNSへ
 6月15日(土) 13:00-/19:00-/ 6月16日(日) 11:00-
 LiveArt Performance with SoftRobotics + 小林勇輝 (GeekLoveProject)

- ・上記時間・内容は、変更する場合がございますので、詳細はWeb/SNSにてご確認ください。
- ・お座席には限りがございます。(先着順・椅子席100名) 車椅子等、優先席をご希望の方はご連絡ください。
- ・上記の時間帯は当日の状況により前後する場合がございます、ご承知おください。
- ・ご連絡先: geekloveproject.tokyo@gmail.com (異形の愛製作委員会 | Geek Love Project)



展覧会「人と科学と現代アート=ステレオタイプを超えてゆけ=」

この度、展覧会「人と科学と現代アート=ステレオタイプを超えてゆけ=」を開催いたします。これまで「かたいモノ」とされてきたロボットの常識を打ち破り、「やわらかさ」をテーマに、「ソフトロボット学」を世界に発信するパイオニア 東京工業大学工学院 機械系 鈴森・遠藤研究室をはじめ、東京工業大学博物館 百年記念館 (意匠設計/篠原一男)および、同学建築学系の研究者の方々にご協力を頂き、そして、パフォーマンスや映像、アニメーション、写真等、インタラクティブな表現を扱う20代から70代の研究者やアーティストをお招きし、「固定観念からの逸脱」について考えます。先史より科学の発展と共に歩んできた芸術表現の変遷を考えると多様なメディア表現が行き交う今日、同時代の表現者と共に その先の「知」の公共性について 考える意義は大きいものと思われまふ。本展の開催に際し、ご支援ご協力を頂きました方々には厚く御礼申し上げます。また、本展の参加作家、故佐藤雅春氏(1973-2019)とのご縁をつないで下さったご家族 大垣美穂子様へ感謝の意を表します。

今年4月、森美術館で出会った 佐藤雅春氏の作品は、誰もいない空間に鳴り響く携帯の着信音が印象的な映像作品でした。それは「応答せよ、応答せよ」と訴えかけているようで、気がつく私の「手」はこの作家とのコンタクトを求めキーボードを打っていました。後日、佐藤氏のご家族からの着信で私の携帯が鳴った時、それは佐藤氏の作品そのものの光景でした。ただ一つ違うのは、そこに応答する人間が介在していたことでした。本展では、佐藤氏が生前に発表した「HANDS」という映像作品をイムラアートギャラリー様のご協力のもと 再編集してご紹介いたします。そこには人間の「手」を介して生まれる 様々な行為がアーカイブ化され、本展が掲げる「アート×科学=対話」の方程式を語る上で欠かせない存在となっています。世界最古の「ラスコー洞窟」の壁画に始まり、科学技術や文化・芸術も全てはこの「手」の行為から始まり今日に至ります。いかに科学が発達しても、この直感的でパフォーマンス的な「手」の所作が消えることはないのではないのでしょうか。なぜなら、「手」を用いて得られる充足感と達成感は人間の欲動として揺るぎなく、ロボット工学者の広瀬茂男博士(1947-)は、「ロボットのオートメーション化が進んでも、人間の「手」による司令と操作性の体感は不可欠だ」と語ります。一点の隙もない 篠原一男建築の幾何学的美意識も彼が残したスケッチを見ればわかるように、全てはこの「手」から創出されています。しなやかに躍動し縦横無尽に立ちのぼるドローイングはまさに「手」の行いです。本展では、「住宅は芸術だ」、「プログレッシブ・アナーキー」、「カオス」といった数々の概念を生み出した篠原一男の「手」による建築作品「東京工業大学博物館百年記念館」を舞台に、従来であれば同一空間に展示されたり、論じられたりすることが稀有な同時代の科学者や研究者、アーティストらが集まり、それぞれの「応答」を切り取りながら 各々の「手」から始まる物語を紡ぎ出し再構築いたします。

本展の舞台である“東京工業大学博物館百年記念館”は「ハードとソフトが出会う場であり、情報発信の場」として、1987年に設立されました。建造物から突き出したロボットの面構えのような半円柱のフォルムは「大学と街(大岡山)との間における 会話の空間化」として存在します。今でこそ、「社会と地続きの大学」や、「大学ミュージアムの社会的活用」といった「社会共創」の理念や実践が普及していますが、今から30年前に既に篠原一男はこうした世相を予測し、反映していたのかもしれない。設計当時、篠原は、「このような独特なフォルムの具現化には 建築技術の進化がなければ出来なかった」と話しています。本展では、こうしたテクノロジーの進化がなければし得なかった 現代アートの作品をご紹介して参ります。言うなれば、作家個人の努力や 表現によって「作品」が成立するのみならず、その時代ごとの文明の進化と叡智に裏付けされた「表現」であり 社会への「応答」です。一見すると個人レベルでの「応答」は他人事として見過ごされがちです。ですが他者の表現や考えを知ることは、自分自身と社会との間に適切な「対話」を構築し新たな価値観へと変換させる一つのプロセスではないのでしょうか。そして、そういった個人レベルからのアプローチが市民レベルでの文化や科学の発展を後押しするサポーターとなり、その先に文化遺産が生まれ人間の叡智が「博物館」にアーカイブ化され、再び社会と接続しバトンをつないでいく… 私は、この文化の「正のスパイラル」について、建築家 篠原一男が残した「東京工業大学博物館百年記念館」と共に味わいながら、本展覧会が私たちの社会を支える科学や文化・芸術について考える好機となることを期待してやみません。

2019年6月15日(土)~16日(日)の2日間、ぜひ、「東京工業大学博物館百年記念館」へお運び下さい。多くの方々にお目にかかれることを楽しみにしております。
 藤本ナオ子 Geek Love Project

【ABOUT】

会 期: 全2日間(入場無料)1日目: 2019年6月15日(土)11:00~21:00 (入場20:30迄) / 2日目: 2019年6月16日(日)10:00~18:00(入場17:30迄)

会 場: 東京工業大学博物館 百年記念館 1階 ラーニング&インフォメーションズ「T-POT」

〒152-8581 東京都目黒区大岡山2-12-1(東工大 大岡山キャンパス内・正面わき) 最寄駅: 東急目黒線/大井町線 大岡山駅下車徒歩

主 催: 異形の愛製作委員会 | Geek Love Project (企画・制作・広報) / Email: geekloveproject.tokyo@gmail.com

共 催: 東京工業大学工学院・機械系 鈴森・遠藤研究室、科研費新学術領域研究ソフトロボット学 (Science of Soft Robots) <http://softrobot.jp/>

助 成: アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)

協 力: 東京工業大学博物館百年記念館、道家達将先生(東京工業大学名誉教授)、東京工業大学 工学院・機械系 鈴森・遠藤研究室

東京工業大学 情報理工学院・情報工学系 小池英樹研究室

東京工業大学 環境・社会理工学院 建築学系 奥山研究室、塩崎研究室、遠藤康一氏(建築家、8d/遠藤康一建築設計事務所)

イムラアートギャラリー、大垣美穂子(作家)、ギャラリー冬青、Aterier NOVA、一条、Small Talk Project(現王園セヴィン、Alison Chen)

武市慎二、田中絵子、谷山恭子、水品マミ、橋川亜衣子、福井博子、藤本令子、湯浅英俊、Jingyi Wang、米窪由樹子(敬称略)

「SPECIAL THANKS」

広瀬茂男先生(東京工業大学名誉教授)、鈴木直美様(東京工業大学工学院・機械系 鈴森・遠藤研究室)

永田靖先生(大阪大学副学長 21世紀懐徳堂学主)、文化服装学院文化・服装形態機能研究所、東京大学 | 社会を指向する芸術のための人材育成事業 (AMSEA)

Director/Curator

藤本ナオ子

異形の愛製作委員会 Geek Love Project

本企画を生み出すキッカケとなった米国の小説「異形の愛/GeekLove」の作者 キャサリン・ダン / Katherine Dunnに捧ぐ。

geekloveproject.tokyo@gmail.com



-Go beyond Stereotypes-

ART x 科学 = 対話

